

## 岩手県野田村の支援・交流活動報告（2013年12月21日）

12月とは思えないほどの暖かい晴天の中、学生事務局のハイテンションな笑い声が響く中で、野田行きは定期便は弘前を出発しました。本日の活動の参加者は、ハンドトリートメントを担当してくださる市民団体の皆さんと、市民参加者14名、学生23名、教員1名の全部で38名でした。ただ、残念なことに本日も無断欠席学生が3名いました。責任を持ってエントリーしてほしいなど改めて思いました。

移動中の車中では、全員の自己紹介と教員事務局から「チーム・オール弘前」の設立経緯や今までの活動内容、そして活動の意義などについての説明がありました。また、今回から初めての試みとして、学生事務局が作成した活動記録のDVDを上映いたしました。震災直後の様子や今までの活動内容がよく分かる内容で、大変好評でした。残りの時間には、活動グループの班分けが行われました。



道の駅「おりつめ」での記念撮影



ハンドトリートメントの施術の様子

活動内容は、予定していた児童クラブでの学習支援、チーム北リアス現地事務所での中学生対象の学習支援、そして中学仮設集会場での茶話会とハンドトリートメントに加え、二日前に急きょ決まった野田村保育所での保育サポートの四つの活動でした。

この日は工事による渋滞もなく順調に進み、野田村には予定通りの10時半に到着しました。児童クラブでは15名ほどの子供たちが我々の到着を待っていました。本日から、今までの学習支援に加え、学生たちが準備してきた、よく飛ぶ飛行機などの工作教室も行いました。工作教室では早速みんな、飛行機を作って、どこまで遠く飛ぶのかを競っていました。また、お兄さんたちと将棋をする子供も、お姉さんに勉強を覚えてもらう子ともたちもいました。午後からは体育館でミニサッカーや鬼ごっこなどを目一杯楽しんだ様子でした。学習支援に参加した一般参加者からは、「久しぶりに汗をいっぱいかいた。これ以上は動けない」と楽しそうな悲鳴が聞こえてきました。

一方、チーム北リアスで実施予定だった、中学生を対象とした学習支援は、残念ながら参加学

生が現れず、実施できませんでした。広報のし方や実施場所などを再検討する必要があると思いました。中学側と改めて相談し、実施計画を再検討します。

野田中学仮設集会場では、15名近くの住民の方が待っていただきました。我々の到着の前に別の団体によるクリスマス会があったようで、集会所には熱い熱気がまだ残っていました。茶話会では、ハンドトリートメントの先生と学生事務局の指示に従って、それぞれが役割分担をしてスムーズに準備が進められ、到着から10分後には茶話会とハンドトリートメントの施術が実施されていました。

ハンドトリートメントでは、温かいお湯で手を温めた後、アロマオイルで指一つ一つを丁寧にマッサージしていました。施術を受けている村民の顔からはみるみるうちに、穏やかな笑みがこぼれてきて、気持ちがいいんだなとうらやましく思えました。また、ハンドトリートメントを待っている村民の方は、一般参加者や学生の皆さんとよま話に花を咲かせていました。今日はいつもの以上に大きな笑い声があちらこちらで飛び交っていて、集会所の外まで元気な笑い声が聞こえていました。



児童クラブでの学習支援



保育サポートの様子

また、初めて実施した野田村保育所での保育サポートでは、自己紹介の後、子供たちと一緒に、歌ったり踊ったりと楽しい時間を過ごしたようです。子供たちからいろんなあだ名をもらって感激したという学生もいました。思ったよりスムーズに溶け込めたようで、次回も活動に参加したいという声が多く聞きました。

帰りのバスの感想タイムでは、「野田村の皆さんの大きな笑い声を初めて聴いた。安心した」「野田村の子供たちが名前を憶えてくれて、ありがたかった」などの声が多く、また機会があれば参加したいという声も多く出ました。そして、最後には教員事務局の李から、年度内の活動計画の紹介と、一年間の協力に対するお礼の言葉を述べました。

今年一年も、一般市民や学生の皆さん、そして市民団体の皆さまのご協力のお蔭で、大きな事故一つなく、無事に一年間の活動を終えることができました。略式ではございますが、この場をお借りして、お礼を申し上げます。また、野田村役場、野田村社会福祉協議会、野田小学校、野田中学校、チーム北リアス、弘前市市民との協働推進室などなど、多くの方のご協力と支援があってチ

ーム・オール弘前の定期便が継続しております。この場をお借りして、感謝申し上げます。ありがとうございました。また、来年もチーム・オール弘前の定期便は継続して運行する予定です。新しい年にも変わらぬご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

(担当:李永俊)